



『海禅寺新聞』第46号

暑さの夏がやってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。この酷暑、我慢や気合、根性といった「気持ち」では到底耐えられるものではありませんから、どうぞ適切に涼をとり、どうかご安全にお過ごしください。

そうした中、既に案内の通り、海禅寺では昨年住職の寄付で、本堂に大型エアコンを3台設置しました。お客様で本堂は涼しく、快適な空間となっております。寺は皆さんの場所です。必要に応じご法事等で、ぜひご活用ください。

『生きる力・121号』送付

おなじみ真言宗智山派が発行する情報誌「生きる力」。本号から一部紙面がリニューアルされ、より楽しく読みやすくなっております。ぜひご一読ください。

新しい連載も複数始まりました。私は巻末の「グローバルサウス『インド』の今」に注目しています。仏教誕生の地インド。若い頃、興味の赴くままに、リュック一つを背負って何度か貧乏旅行で訪れました。仏教の伝統のみならず、複数の宗教を基盤に広がる多様な文化、そして多言語が混在しながら共存している多様性の国です。

そうしたインドで、古の伝統文化と近代との衝突が起こっているそうです。日本か

ら遙か遠いインドですが、同じく豊かな伝統文化を持つ私たち日本の今を考える新しい視点として、本特集をお読みいただくと興味深い発見があるかもしれません。

施餓鬼会のご案内

夏恒例の施餓鬼会法要、今年も例年同様の時間帯で実施いたします。皆様のご先祖と、ごなたからも供養されない御霊を皆で供養して福德を授かり、皆に広げる大切な法要です。詳しくは同封の別紙、『施餓鬼会法要のご案内』をご一読ください。

日 程…令和7年8月12日（火）

時 間…十時〇〇分 諸報告

十時十〇分 法話 小宮 俊海 師

大正大学・智山伝法院 非常勤講師

演題『真言宗と後七日御修法』（仮）

十一時〇〇分 施餓鬼法要

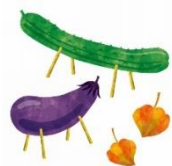
十一時五十分 お塔婆授与（順次散会）

◎法要前の法話は、久しぶりに外部の先生をお招きいたします。副住職が総本山での修行僧時代を共にし、その後、宗派の大学院でもお互いに研鑽を重ねた法友、小宮俊海先生にお越しいただきます。実は毎年十一月の人形供養会でも御助法くださっています。

今回お忙しい中でしたが時間を都合し、御自坊がある東京からお越しくださいます。キレと笑いと学びに溢れるお話を、ぜひお聞きください。

※海禅寺墓地にて、塔婆立てが古いお塔婆でいっぱいになっております場合は、それぞれの墓地脇に塔婆を寝かせて積み置いてください。境内外墓ご利用のお檀家さんの古

いお塔婆も、寺にご持参いただければお焚き上げし、読経供養いたします。
※できるだけお盆中にお持ちください。



報告 総本山参拝

去る6月14、15日、お申込みいただいた檀信徒の皆様と、京都にございます総本山智積院に参拝旅行へ出かけてきました。

本山の会館は、楽天トラベルの宿坊ランキング1位という人気のお宿です。その為なかなか予約がとれませんが、住職が早くから本山に依頼をし、24名の宿泊を受け入れていただきました。（24名限定の参拝旅行でしたが、お申し込み数は、偶然ぴったりの24名！）

折しも智積院は、年に1度の「青葉まつり」行事の日。これは真言宗の宗祖・弘法大師空海さまと、中興の祖・興教大師覚鑿さまのご誕生をお祝いする行事です。

大法要が営まれ、様々な催し物があり、境内にはフリーマーケットが軒を連ねておりました。

ところでこの大法要で御導師をお勤めになったのは、総本山智積院第72世化主の布施浄慧猊下でした。

そして同月の末、6年に渡る管長職のお役目を無事終えられ、本山を降り、御自坊へお帰りになされました。

その最後の大法要での御姿に私たちはまみえることができました。その居ずまいだけで仏法を語るかのような存在感に、私たちのみならず、多くの参拝者が手を合わせていました。

実は布施猊下と海禅寺住職は大変に縁が深く、多くのご教導をいただいて参りました。共に青年僧侶時代から、総本山智積院智山講伝所に所属しておりました。智山講伝所とは、智山派における法儀（法要や読経など）全般を司り、研鑽を深め、広く宗派所属の僧侶方に指導をする役割を担う組織です。当時、布施猊下は海禅寺住職の上司にあたるお立場で、多くの時間を一緒に過ごしたそうです。その仏縁から副住職もあまたの恩恵を受けてまいりました。海禅寺としてこの御恩義に、改めて感謝の想いを捧げたいと思います。

さて参拝旅行ですが、総代さん世話人さん方をはじめ、様々なお立場のバラエティー豊かな皆さんにご参加いただきました。個人旅行とは違い、時に団体行動をお願いする場面もありましたが、個別に旅行をしていては得る事ができない体験をたくさんしていただけたと思います。無事に上田へ帰り着いた時には皆さん口々に、「楽しかった！」「ぜひまた参加したい」とおっしゃってくださいました。

京都のような遠方の旅行は費用もかか



り、なかなか頻繁に企画することは叶わないかもしれませんが、関東近郊などの参拝旅行を今後検討し企画して参ります。その折には大勢の皆さんのお申し込みをお待ちしております。

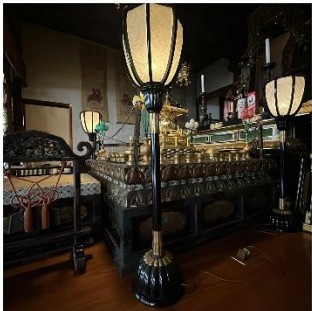


青葉まつりの朝、総本山のお勤めに参加した後、参加者皆さんで記念写真

※バスの中に海禅寺半袈裟の忘れ物がありました。お心当たりの方はお申し出ください。

本堂大壇修復

私たち真言宗の僧侶は、仏様や亡き方を御供養する際に、修法（しゅほう）という密教独特の供養法をお勤めいたします。特に正式な荘厳の中でお勤めする際に、欠かせないのが大壇（だいだん）と呼ばれる古式に則り作られた机状の法具です。↓この度、住職が発願し、海禅寺本堂で古くから大切に使用してきた大壇を修復するに致しました。大変に立派な作りのものですが、塗りが剥離していたり、金具等が取れかかっている箇所が見られます。



修復の依頼先は、海禅寺ではおなじみの京都の仏具店、作島さんです。聖天堂内の仏具をはじめ、近年購入したり修復をした海禅寺の仏具は、すべてこちらでお世話になっていきます。丁寧で繊細な手仕事に、深い信頼を寄せている職人集団です。作島さんの理念は、「伝統・信仰の尊さを、仏具と共に未来へ繋いでいく」というもの。今回の修復した大壇は、海禅寺が続く限り、代々祈りの要として、拝み使われていくことでしよう。

大変に費用がかかる事業となりますが、住職が私費で修復し、寺に納めさせていただきます。ご案内の通り住職は、本年正月に、真言宗における最高の法義と言われる「御七日御修法」に出仕させていただきました。この記念事業としたい所存です。

大壇と礼盤（椅子）、脇机、打ち鳴らし、四方のボンボリも合わせて修復いたします。多くの職人さん達の手が入るため、納期は来年春となる見通しです。それまでは本堂本尊様前は、何もない状態です。ただし、ご法事等のお勤めに支障ありませんので、どうぞご理解ください。

霊峰白山登拝修行

ご縁あつて開山祭に伴う白山登拝修行会へ参加して参りました。白山は、富士山、立山とともに日本三霊山の一つである霊峰です。北陸地方の石川県と岐阜県にまたがる標高2702mの活火山であり、古くから山岳信仰の対象でした。白山を開山したのは、修験道に精通した僧侶、泰澄（たちよう）です。泰澄は、7世紀末に、越前に生まれました。幼いころより神童の誉れ高く、14歳のとき、夢で十一面観音のお告げを受け、故郷の越知山に籠って修行にあけくれるようになりました。

霊亀2年（716年）、泰澄は夢で、虚空から現われた女神に、「白山に來たれ」と呼びかけられます。お告げを信じた泰澄は、それまで誰も成し遂げられなかった白山登拝を決意し、弟子とともに白山を目指して旅立ちました。そして幾多の困難の末、ついに山頂に到達。養老元年（717年）、泰澄36歳のときでした。これが白山信仰の始まりとされています。

※登拝（とはい） 信仰心から山に登ること

この白山信仰を今に守り伝える一派が、北陸修験道白山会です。毎年7月1日の山開きに合わせて、修行会を開いています。実は昨年も参加させていただいたのですが、防風警報が出ている中での決行でした。荒天豪雨に見舞われ、山の厳しさという言葉では言い表せない程の過酷な山修行でした。白山はその自然の美しさも魅力だとは聞いていましたが、とてもそれどころではなく、山頂付近では経験したことがないほどの突風にもさらされ、命からがら歩みを進めるような時間帯もありました。

このように名峰白山の印象が、私の中で厳しさだけで終わってしまうのも悔しい

と想っていたところ、今年再度挑戦する機会をいただいたのでした。

今年は昨年と打って変わって快晴の山修行でした。ただし気温がかなり高温になり、熱中症気味で途中から山を下りる決断をした修行者も数名出るほどの、昨年とは違う厳しさもありました。しかし、山頂付近は残雪と共に美しい高山植物が咲き誇り、各要所でのお勤めも無事納める事ができ、忘れがたい経験を重ねました。また山開き当日は、早朝3時半から前日投宿した山小屋より山頂を目指して登拝し、見事なご来光まで拝むことができました。

大自然は私たち人間の感情など関係なく、ただただ雄大で、美しく厳しく、暖かで暑くて冷たくて、私の主観では到底捉えられない程に広大で奥深いものです。しかしよく考えてみれば、こうして今足元にある里の日常も、実は地球という大自然の一部に存在しているのです。毎日の慌ただしさの中で見失っていた何かを得たような、そんな山修行でした。お山で養っていただいたもの。微力ながら法務を通じて皆様に還元できたらと思っております。

